

平成26年度研究協議会資料

都道府県・指定都市番号	34	都道府県・指定都市名	広島県	研究課題番号・校種名	2 中学校
				教科名	保健体育
研究課題	<p>新学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>【体育分野】</p> <p>○運動を合理的に実践するため、運動の技能や知識を活用するなどの思考力・判断力を育成するための指導や評価方法等の工夫改善についての研究</p> <p>【保健分野】</p> <p>○個人生活における健康課題を把握し、その解決を目指して具体的に考え、判断し、それらを表現する力の育成を目指して、以下の単元における「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究開発</p> <p>・第1学年の「(1)心身の機能の発達と心の健康」</p>				
ふりがな 学校名 (生徒数)	おのみちしりついでんほくちゅうがっこう 尾道市立因北中学校 (142人)				
所在地(電話番号)	広島県尾道市因島中庄町 4405 番地 1 (0845-24-0029)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.onomichi.ed.jp/inhoku-j/">http://www.onomichi.ed.jp/inhoku-j/</a>				
研究のキーワード	<p>○活用場面における、「自ら考え・判断し、導き出す」ための時間の確保</p> <p>○思考の過程と思考力・判断力の変容が読み取れ、既習事項の活用場面が明確になるワークシート</p> <p>○知識・技能の習得・活用を促進する学習形態</p> <p>○「できた」が実感できる課題提示と実生活に即した課題提示</p>				
研究成果のポイント	<p>○思考の流れや既習事項の活用場面が明確になるようなワークシートは、生徒の思考力・判断力等の育成に効果があり、技能面の向上につなげることができる。</p> <p>○多様な学習形態の活用は、生徒の思考を促し、自らの考えを深め、発展させる機会の増加につながるとともに、生徒の思考力・判断力等の育成に効果があり、運動意欲を向上させることができる。</p> <p>○実生活に即した課題を工夫して提示することは、ディスカッションを深め、生徒の思考力・判断力等の育成に効果があり、表現力を向上させることができる。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力・健康の保持増進のための実践力を創造する保健体育学習  
～仲間との関わり合いを通して、思考力・判断力等を育む指導方法の工夫～

(2) 研究主題設定の理由

全校の9割の生徒が「保健体育の授業が好き」と肯定的に回答しており、意欲的に学習に取り組んでいる。しかし、体育分野では、既習事項を整理し、相手に伝えていく力や習得した知識や技能を様々な学習場面に応じて活用する思考力・判断力等に課題がある。また、保健分野の学習においても、心身の健康の保持増進に関する基礎的・基本的な内容について、科学的に思考したり、学習した内容と実生活との

関連を図ったりすることができている生徒は約3割であり、自らの健康を適切に管理し、改善していく思考力・判断力等に課題がある。

そこで、研究主題を「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力・健康の保持増進のための実践力を創造する保健体育学習～仲間との関わり合いを通して、思考力・判断力等を育む指導方法の工夫～」とした。仲間との関わり合いを通して、学び合いを促進させ、基礎的・基本的な知識・技能の習得をより確かなものにしていくとともに、それらの活用により、体育分野では、運動を合理的に実践していくための思考力や判断力等の資質や能力の育成につなげることを目指した。保健分野では、自らの生活における健康課題を見付け、改善策を見出すための基礎的・基本的な知識を活用し、具体的に考え、判断し、それらを表現する力の育成を目指し、本主題を設定した。

### (3) 研究体制

校長・教頭・教務主任・研究主任・保健体育科・体力づくり推進リーダーの合計6名を「研究プロジェクトチーム」とし、四つの委員会を柱に「知識と技能を活用した授業づくり」についてマネジメントを行う。

- ・指導と評価の在り方検討委員会：指導内容の系統性と評価の在り方に係る検討
- ・指導案検討委員会：指導と評価の計画の構造化，目標，展開，まとめの整合に係る検討
- ・教材・教具検討委員会：思考の過程と判断力の変容を読み取れるワークシートの作成と共有化
- ・体力づくり校内委員会：「思考力・判断力等」からのアプローチによる体力向上についての検討

### (4) 1年間の主な取組

平成 26 年 度	4月	校内研究体制の整備	研究計画の作成と修正	生徒の実態把握(アンケート等)
	7月	校内授業研究	体育分野：C陸上競技「走り幅跳び」	
	10月	公開研究会	保健分野：心身の機能の発達と心の健康 「ウ精神機能の発達と自己形成」	
		調査官訪問	体育分野：B器械運動「マット運動」 保健分野：心身の機能の発達と心の健康 「ウ精神機能の発達と自己形成」	
	11月	前指定校訪問	札幌市立上野幌中学校	
	12月	研究のまとめ	研究協議会資料作成	
	2月	研究協議会での発表	研究実践発表	研究成果報告書作成
	3月	次年度に向けての年間指導計画及び評価規準の見直しと作成		
			※各単元の事前・事後アンケートの実施	
			※月に一回程度，各検討委員会及校内委員会の実施	

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

- 学習指導要領の趣旨（例示や内容について）に基づいて、指導内容の明確化（本時のねらいや学習する内容が明確で具体的であるか）を図りながら、指導と評価の計画の工夫・改善（何が身に付いたのか，どこまで身に付いたのか），思考の過程と判断力の変容を読み取れるワークシートの活用等の指導方法の工夫改善を通して、運動の知識や技能を活用するなどの思考力・判断力等の育成を目指す。
- 生徒の実態（学習経験や技能の程度）に応じた学習課題を提示し、自ら考え、判断したことをもとに、仲間との関わりを通して、さらに自己の考えを深めたり、他者の意見を取り入れたり、助言し合う等の活動を通して、思考力・判断力等の

育成を目指す。

<体育分野のテーマ> 「できた」が実感できる運動の課題提示

<保健分野のテーマ> 「ディスカッション（思考の交流）」を通しての学習課題の追求

（2）具体的な研究活動

① 体育分野「B 器械運動（マット運動） 第1学年」

<知識>

- ・器械運動の技は、系、技群、グループの視点によって分類されていること、また、技には名称が付けられており、それぞれの技の局面で技術的なポイントがあること
- ・筋力や柔軟性、平衡性などが種目や技の動きに関連して高められること

<例示>

- ・学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けること
- ・課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選ぶこと
- ・仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘すること  
（学習指導要領解説 p 48・49）

「知識＝わかる」「技能＝できる」「態度＝身に付ける」を循環させるための『活用場面＝思考力・判断力等』を意図的に設定した。

○目指す生徒の姿を「気付く」「考える」「理解する」「認め・讃える」「挑戦する」と設定した。

○活用場面における、「自ら考え・判断し、導き出す」ための時間を確保した。

- ・仲間との関わり重視する（学習形態＝個・ペア・トリオ・グループ・全体）
- ・学習の場（課題に応じて）や練習方法（合理的な動き方のポイントを見付ける）の選択
- ・習得した知識や技の局面での技術的なポイントやキーワードを活用しての助言や指摘等

<思考力・判断力を育成するための指導方法の工夫>

- ・矢印等の記号を用いて、課題を解決していく筋道や既習事項の活用場面が明確になるようにワークシートを構成した。
- ・ICT機器を用いて演技を分析し合う等、知識・技能の習得と思考を促進させる場面を設定し、生徒が相互に出来栄を高めるための助言や指摘を行うことができるようにした。

<思考力・判断力等の評価の工夫>

- ・小学校や高等学校の学習内容を踏まえた指導計画を作成し、単元の目標や内容と関係づけた上で、評価規準を作成した。
- ・ワークシートへの記述内容について、評価規準「B」を明確に提示し、「具体例」「根拠」「理由」をあげて説明しているものを評価規準「A」と設定し、評価を行った。

<関連して高まる体力の体得>

○新体力テストの体力要素と関連のある種目の測定を実施し、過去の記録との変化を分析した。

② 保健分野 「ウ 精神機能の発達と自己形成」

<内容>

- ・生活経験などの影響を受けて発達する精神機能・自己の認識の深まりと自己形成「自己は、様々な経験から学び、悩んだり、試行錯誤を繰り返したりしながら社会性の発達とともに確立していく」（学習指導要領解説 p 150）

知識の習得と科学的根拠による思考力・判断力の育成及び実践力（活用力）の体得に向け、事例を用いたディスカッションを通して、仲間の意見との相違点を見出し、自己を形成していく社会性の発達が「心の健康」と結びつくようにした。

○目指す生徒の姿を「気付く」「考える」「理解する」「行動する」と設定した。

○活用場面における、「自ら考え・判断し、導き出す」ための時間を確保した。

・仲間との関わり重視する（学習形態＝個・ペア・トリオ・グループ・全体）

・自他の経験や身近な人、著名な人の事例を基にディスカッションを行った。

<思考力・判断力等を育成するための指導方法の工夫>

・「比較」「共通点」「相違点」等の視点を示したワークシートを構成し、思考の過程やディスカッションを通しての思考の変化が読み取れるようにした。

・ディスカッションや意見交流を通して、自らが導き出した考えについて、「伝え型」を提示することで、根拠を明確にした発表（表現力）をさせた。

・実生活との関連が明確となるような課題を提示した。

<思考力・判断力等の評価の工夫> ※体育分野と同様

### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

○指導と評価を明確にした単元計画に基づく指導により生徒は、見通しをもって学習することができ、思考力・判断力を育むための時間を確保することができた。

○本時の目標に迫るための思考の過程と判断力の変容を読み取れるワークシートを作成・実施することにより、知識や技能を活用する場面を意図的に取り入れることができ、結果としてできそうな技、できる技を増やすことに効果があった。

○実生活に即した課題を提示することにより、ディスカッションが深まり、自らの心と体の状態について、現在の自他の健康・安全についての課題を整理し、課題に応じた的確な思考・判断を行い、その結果をまとめ、伝え合うことができるようになった。

○自らの課題を見付け、習得した知識や技能を活用し、仲間との関わりの中で改善策を見出す活動（時間）を通して、運動への関心・意欲・態度（運動の質的変容・運動への取り組み方）を向上させることができた。

#### (2) 課題

○思考力・判断力等を見取る評価の在り方については、ワークシートの記述や発表内容、活動場面における発言等を中心に行ったが、評価方法の在り方について、改善を図る必要がある。また、単元を終えて身に付けた思考力・判断力の評価の在り方についても、今後改善を図る必要がある。

○思考力・判断力等の育成や、知識を活用した学習活動を充実させていくには、単元計画を見直し、各単元における時数の配分を増やしていく必要がある。

#### (3) 指定期間終了後の取組

研究成果や課題を踏まえ、今後、他の単元・領域でも継続的に取り組み、思考力・判断力等を育む授業を構築していくとともに、技能、態度、知識、思考・判断をバランスよく指導できる単元計画を作成し、指導と評価の一体化を図りながら、学習指導の改善につなげていきたい。

また、中学校区の小学校と授業実践交流などを通して研究成果や課題の共有化を図り、研究の幅を広げていきたい。さらに、本研究の成果については、市内外において実践発表等を行うことにより、幅広く還元していきたい。